

台湾の核果類事情(モモ、サクランボ)

米国農務省GAINレポート 2025年7月14日

これは米国農務省海外農業局台北事務所(台湾)が作成した「核果類年次報告書」を訳したものであり(一部省略)、米国政府の公式見解及びデータとは異なる場合があります。

要旨

台湾は核果類の成熟した輸入市場である。モモのみを生産しており、ネクタリンとサクランボは生産しておらず、それらの供給はすべて輸入に依存している。2025年には、台湾のモモの生産量は1万7千トンに達すると予想されており、低温要求量の少ない品種のシェアが増加している。国内生産量の増加と冬季のネクタリンの輸入の増加により、2025年の総消費量は3万1,500トンに達すると予測される。台湾のサクランボは、主に冬はチリから、夏は米国から供給される。旧正月の贈答品の伝統に牽引された冬の需要により、2024/25年度の輸入量は10年ぶりの高水準である1万5,568トンに押し上げられた。2025年には、高品質な米国産の安定した出荷が夏の消費を押し上げると予想される。2026年の旧正月はチリのサクランボ出荷シーズンの終了と一致するが、それでも2025/26年度のサクランボの消費量は合計で1万6,500トンに達すると予想される。

<モモ>

生産

台湾はモモのみを生産しており、ネクタリンは生産していない。全体として、台湾のモモ産業の規模は現在安定しており、栽培面積は約1,900ヘクタールで横ばいである。近年、いくつかの低温要求量の少ない新品种が実を付け始めており、栽培面積が増えるかどうかを判断するには、市場の受けとめ方を観察することが必要になるだろう。今年は比較的安定した天候のため、予想生産量は1万7千トンに回復するものと見られる。

主な産地は台中市(和平区等の高地、^{タイチュン} ^{ヘイピン} 新社区、東市区等の丘陵地帯)、桃園市(復興区の高地)及び新竹県(建市郷の高地)にある。しかし、異常気象、政策及び環境問題により、丘陵地帯の面積が徐々に増加し、一方、高地での栽培は減少することが予想される。

台湾のモモは、一般的に2つの季節に分けることができる: 低温要求量の少ない丘陵地帯のモモは5月から6月に収穫され、低温要求量の多い山岳部のモモは7月から9月上旬に収穫される。低温要求量の少ないモモの市場シェアが増加を続けている一方、高地のモモは輸送上の課題や他の作物への切り替えにより減少すると予想される。昨シーズン終盤の台風と豪雨により、低温要求量の多い山岳部のモモが被害を受けたため、2024年の生産量は1万6,118トンに下方修正された。

近年、暑さが増すに連れて低温要求量の多い品種の開花時期が不規則になったり、極端な高温によって果実の成熟が早まったり、水不足によって果実が小玉果したりした結果、10年前に比べて平均的な品質が低下している。

最近の観測によると、近年の異常気象の影響で、台湾の降水パターンは既に変化している。平均的な果実サイズが小玉化し続けており、将来のモモ生産はより大きな課題に直面すると見られる。現在、市場に出回っている一般的なサイズは、1果実当たり概ね150~250グラムの範囲である。

モモの品種の更新は、主に政府の農業研究所に依存している。ネクタリン、扁平モモ(蟠桃)及びモモの、低温要求量の少ないいくつかの品種候補が評価の過程にある。しかし、台湾のモモ市場が縮小しつつあり、利用可能な選択肢も多いため、将来の主力品種を予測することはますます困難になっている。

消費と貿易

2025年のモモとネクタリンの消費量は、主に冬季のネクタリンの輸入の増加により、3万1,500トンに達すると予想される。さらに、現在の夏の状況を踏まえると、台湾産と米国産のモモはともに高品質で収量が多く、全体的な消費量の増加に貢献するものと予想される。

通常、台湾中部で生産される低温要求量の少ないモモは卸売市場のセリを通じて販売されるが、他の地域

のモモは生産者によって直接販売される。伝統的に、中部横貫公路(台湾中部横断道路)沿線の高山のモモは、観光客の購入に大きく依存してきた。しかし、(地震や台風の被害により)道路の状況が悪く、高地のモモを輸送することが難しいため、消費者の需要は減少した。

米国は依然として輸入モモの主要な供給国であり、2024年には90%の市場シェアを保持している。米国産のモモの輸入量は、豊富な生産量と良好な品質により2024年に6,066トンに回復したが、これは依然として過去10年間で2番目に少ない。過去10年間のモモの輸入量は、緩やかな減少傾向を示している。

台湾の消費者は水分の多いモモを好むが、ネクタリンは香りや食感が比較的弱いいためあまり好まれず、一般消費者の人気は徐々に衰えている。過去数年間、ネクタリンの輸入量は約7千トンで推移している。しかし、この直近の冬にチリからのネクタリンの輸入が増加したため、2025年のネクタリン輸入量は7,500トンに増加する可能性があると予想される。

2016年以前は、米国はネクタリンの主要な供給国であったが、その供給は長年にわたって次第に減少してきた。昨年、米国はわずか1,059トンを提供し、過去10年間で3番目に少ない量を記録した。現在、チリが冬季のネクタリンの主要な供給国(81%)となっている。

台湾の年間果実生産量と輸入量(及び価格)は比較的安定している。しかし、モモは通常、日常の必須の果実とは見なされておらず、パパイヤ、パイナップル、グアバ、ドラゴンフルーツ、マンゴー、アボカド等、代替となる果実が台湾で広く入手可能な夏の間は特にそうである。



左: 台湾産の低温要求量の多いモモ(写真: ウーリン農場 Facebook ファンページ)

右: ハイパーマーケットで売られるカリフォルニア州産の蟠桃とワシントン州産のサクランボ(写真: 筆者)

モモの輸入先国別輸入量(トン)と市場シェア(%)

輸入先国 \ 年	2018	2020	2022	2023	2024
米国	7,589 (97%)	7,281 (96%)	6,080 (93%)	4,441 (87%)	6,066 (90%)
日本	245 (3%)	285 (3%)	396 (6%)	362 (7%)	411 (6%)
チリ	6	14	26	284	226
ニュージーランド	12	11	—	—	5
オーストラリア	—	6	15	—	—
合計	7,851	7,597	6,517	5,087	6,708

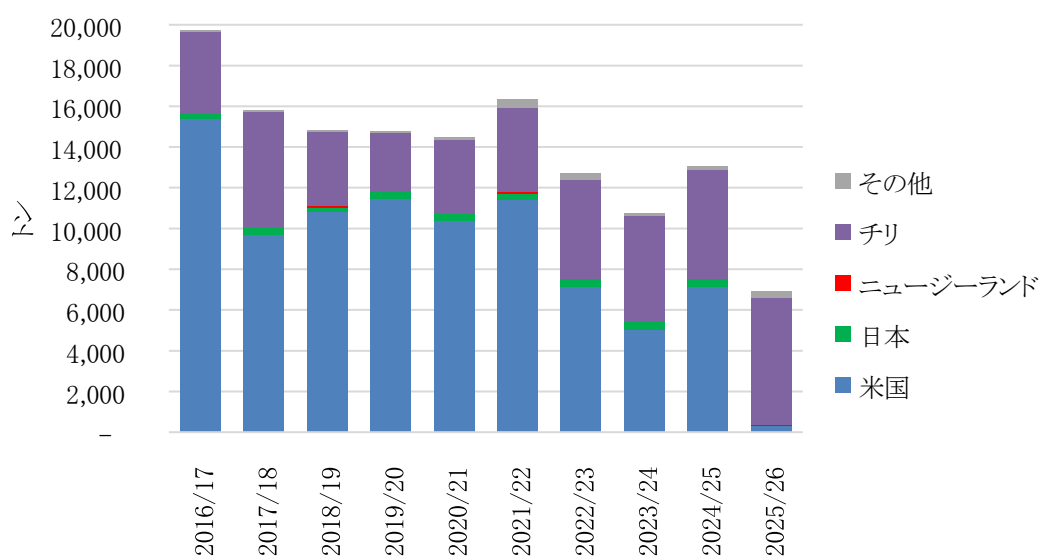
データの出典: 台湾農業部(MOA)

ネクタリンの輸入先国別輸入量(トン)と市場シェア(%)

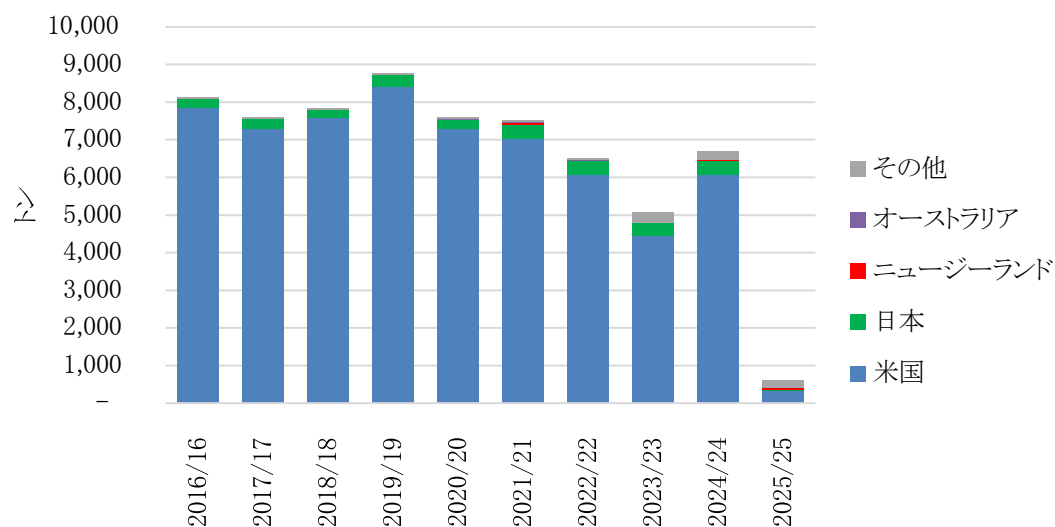
輸入先国 \ 年	2018	2020	2022	2023	2024
米国	3,267 (47%)	3,131 (45%)	1,048 (17%)	583 (10%)	1,059 (17.5%)
チリ	3,644 (52%)	2,665 (39%)	4,857 (79%)	4,971 (87%)	5,143 (81%)
オーストラリア	81	91	271	135	145
ニュージーランド	6	0	-	-	-
合計	6,998	6,888	6,176	5,689	6,347

データの出典: 台湾農業部(MOA)

台湾のモモとネクタリンの輸入量



台湾のモモの輸入量



台湾のネクタリンの輸入量



データの出典：貿易データモニター、台湾農業部

台湾のモモ・ネクタリンの生産需給統計

モモ・ネクタリン、生鮮 販売年度の始まり 台湾	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
	2023年1月		2024年1月		2025年1月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
栽培面積(ヘクタール)	1,939	1,939	1,930	1,963	0	1,970
収穫面積(ヘクタール)	1,914	1,914	1,925	1,932	0	1,938
結果樹本数(千本)	677	677	675	684	0	687
未結果樹本数(千本)	10	10	8	12	0	10
果樹総本数(千本)	687	687	683	696	0	697
商業的生産量(トン)	17,302	17,302	16,800	16,117	0	17,000
非商業的生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
生産量合計(トン)	17,302	17,302	16,800	16,117	0	17,000
輸入量(トン)	10,800	10,800	11,000	13,055	0	14,500
総供給量(トン)	28,102	28,102	27,800	29,172	0	31,500
国内消費量(トン)	28,102	28,102	27,800	29,172	0	31,500
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
市場からの隔離(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	28,102	28,102	27,800	29,172	0	31,500

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。

<サクランボ>

生産

台湾はその亜熱帯性気候がサクランボの生産に適していないため、サクランボを生産していない。国内需要は完全に輸入に依存している。

消費と貿易

台湾のサクランボ消費市場は比較的成熟しており、安定している。台湾へのサクランボの主な供給国は、米国、チリ、ニュージーランドである。ここ数年、台湾の旧正月がチリ産サクランボの出荷時期と重なっており、伝統的に贈答の習慣があることから冬の需要が高まっている。2024/25年度の輸入量は10年ぶりの高水準である1万5,568トンに達した。台湾は米国産サクランボの4番目に大きな輸出市場であり、米国のサクランボの年間輸出量の約8%を占めている。台湾はまたチリのサクランボの4番目に大きな輸出市場でもあるが、チリの年間サクランボ輸出量に占める割合は1%である。

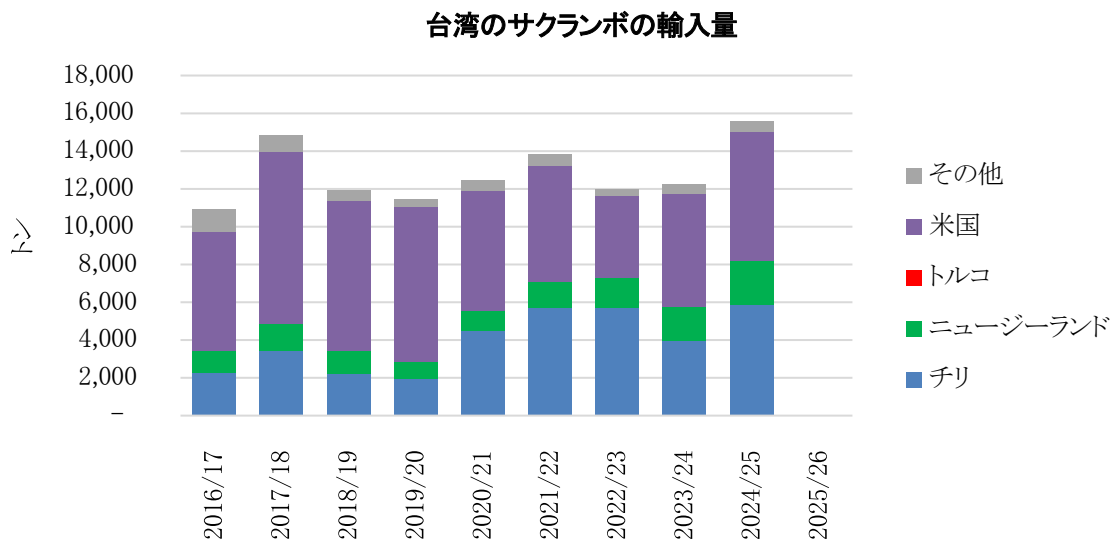
2025/26年度の消費量(=輸入量)は、主に生産量の増加、高い品質、有利な為替レート、及び米国産サクランボの出荷シーズンの早期開始により、1万6,500トンに達すると予想される。一方、来年の旧正月は遅く(今年は1月だったが来年は2月下旬)、チリ産サクランボの輸入シーズンの終了と重なるため、冬の需要は

今年と同程度にとどまるものと予想される。ここ数年の動向を見ると、夏の需要は横ばいであるのに対し、冬の需要は増加してきた。台湾は成熟した市場と考えられているが、当事務所は、今後5年間は全体的な消費がまだわずかに増加するものと予測する。

昨年、残留農薬の違反が複数発生したため、米国産サクランボは台湾衛生福利部食品薬物管理署の水際検査強化リストにまだ載っている。しかし、違反の原因となった主な農薬(メフェントリフルコナゾール)の最大残留基準(MRL)が昨年設定されたため、今年は多くの違反は見込まれない。規則によると、強化された国境検査の対象となる品目の検査率は20～50%とされている。ただし、今年は違反が少ないと予想されるため、全体的な検査率は20%に近い可能性がある。また、台湾は数年前にトルコ産のサクランボに市場を開放したが、これまでのところ輸入の記録はない。したがって、米国は依然として夏季の主たる供給国である。



台湾で流通しているカリフォルニア州産サクランボ(キャロル品種)(写真: 筆者)



データ出典: 貿易データモニター

台湾のサクランボの生産需給統計 (データがすべて0の行を一部削除)

サクランボ(甘果・酸果)、生鮮 販売年度の始まり 台湾	2023/2024		2024/2025		2025/2026	
	2023 年 4 月		2024 年 4 月		2025 年 4 月	
	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値	農務省公式	今回推計値
生産量(トン)	0	0	0	0	0	0
輸入量(トン)	12,300	12,300	12,000	15,568	0	16,500
総供給量(トン)	12,300	12,300	12,000	15,568	0	16,500
国内消費量(トン)	12,300	12,300	12,000	15,568	0	16,500
輸出量(トン)	0	0	0	0	0	0
総仕向量(トン)	12,300	12,300	12,000	15,568	0	16,500

公式データには、[PSD Online Advanced Query](#) からアクセスできる。